



BRT 彦山駅から添田町バスで約 20 分

英彦山スロープカー

駐車場のある「花駅」と、英彦山神宮奉幣殿の最寄駅の「神駅」間を7分で結び、20分間隔で運行。2023年3月に車両が新しくなったと同時にリニューアルした、花駅内のお土産売り場「添田英彦商店」には、添田ならではの選りすぐりの産品も並ぶ。また花駅2階には入場無料の山伏文化財室も。



☎0947-85-0375
 添田町大字英彦山 1487
 上り8:40~16:40、下り8:50~17:10※天候等により変更あり
 片道 350円、4歳~小学生 250円



BRT 彦山駅から添田町バスで約 20 分

英彦山神宮

古くから信仰が根付いていた霊山で、日本三大修験道の聖地ともいわれる。山頂の上宮と中腹の奉幣殿との間に、下宮、中宮も存在する。現在の奉幣殿は小倉藩主細川忠興によって1616年に再建されたもので、1907年に国の重要文化財に指定された。



☎0947-85-0001
 添田町大字英彦山 1
 9:00~17:00
 図なし



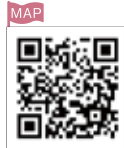
BRT 彦山駅から添田町バスで約 20 分

財蔵坊

銅鳥居から徒歩1~2分の場所に、英彦山で唯一完全な形で残っている宿坊で、現役の囲炉裏や茅葺き屋根が特徴的。現在は添田町歴史民俗資料館として活用されている。「英彦山がらから」絵付け体験は3月~11月の第4日曜11時~14時のみ行っており、1人500円、15分程度で完成。



☎0947-82-1236 (添田町商工観光振興課) ※絵付け体験 070-4126-8733 (添田町観光ガイドの会)
 添田町大字英彦山 1249
 土日祝日の10:00~15:00
 図月曜~金曜、冬季 図入館無料



400段も続く石段を上った先には、400年前に小倉藩主細川忠興が再建した英彦山神宮奉幣殿が鎮座。2023年春に新車両が導入されたスロープカーに乗れば、「花駅」から7分で奉幣殿に到着。道中、車窓からは幻想的な山並みが広がり、四季折々の花木が目を楽ませる。

杉木立に囲まれた神秘的な奉幣殿の境内には南北朝時代に造られたという梵鐘も。英彦山一帯の魅力は、長い歴史に磨かれた豊かな自然美なのだ実感した。



6 山伏の宿坊として使われていた「財蔵坊」。7 坊内には、修験者の日常調度品が展示されている。8 財蔵坊では月に1度英彦山がらからの絵付け体験ができる。9 振るとカラカラと涼やかな音色を奏でる英彦山がらから。赤は太陽を青は水を表し、玄関や軒先に吊るして魔除けとして使われる。

「日田彦山線」の「彦山駅」から向かう英彦山は、福岡県添田町と大分県との県境に連なる修験道の山として知られる。1188mの中岳山頂には英彦山神宮の上宮があり、参道である登山道が続く(※)。参道口には佐賀藩主鍋島勝茂建立の「銅鳥居」と大イチョウがあり、風情ある石段の左右には宿坊の跡が残る。

山伏や参詣者の宿泊所である宿坊の多くが消えてしまいう中、現在も往時の姿をとどめる「財蔵坊」では、「英彦山がらから」という800年もの歴史を持つ素朴な土鈴の絵付け体験を楽しむことができる。

※2025年12月まで上宮修復工事による登山道通行規制あり



スロープカーで神宮へ 英彦山の魅力再発見。



1 江戸時代の駕籠(かご)をモチーフにした新しい英彦山スロープカー。土日など乗客が多い日は2両編成で運行。2 車内から絶景を眺められる。3 花駅内の売店が、添田町の自慢の一品を販売する「添田英彦商店」としてリニューアルオープン。4 国指定重要文化財の英彦山神宮奉幣殿。5 石畳の参道が始まる「銅鳥居」。11月にはそばの大イチョウが色づく。

★泊まるなら、こちら…★



Rural Glamping 星to虹

るーらるぐらんびんぐ ほしとにじ

英彦山の麓にあたる津野地区に、2021年7月にオープン。広々としたテントと充実した施設に1泊2食付きで泊まれる。しいたけ狩り、さつまいも掘りなど、季節に応じた農家体験も好評。

☎070-8525-7218 添田町津野 1297 図なし
 1泊2食1名19,000円(税・サービス料込) ※小学生以下半額、食事・寝具不要の未就学児は無料(要連絡)
 図JR添田駅から車で15分(事前予約で送迎有)
 チェックイン16:00~、チェックアウト10:00

